

こんにちは。岩手大学4年の千葉夕里奈です。

今回のレポートでは①バンクーバーの印象②語学学校③住居の3項目について書かせていただきます。

#### ①バンクーバーの印象について

バンクーバーはカナダの中で最も国際色豊かな町で、町を歩くと色々な国の人を見かけます。カナダは英語とフランス語が公用語ということがあり、商品の注意書きなどは2つの言語で書かれていたり、セルフレジなどは英語とフランス語から言語選択をできたりします。カナダは広いためか、バスが数分おきにいろんな方向へ沢山通っており、移動がとても便利です。しかし、その分慣れるまでは沢山通るバスの中から自分の目的地を通過するものを見極めなければいけなく大変でした。私はかなりの方向音痴ということもあり、バンクーバーに来たばかりのときは何度も道に迷っていました。その度に周りの人に道を尋ねていたのですが、本当にみなさん優しい人たちばかりで。みなさん笑顔で私の拙い英語を聞き取って優しく教えてくれます。こちらに来てから道を尋ねて、冷たくされたことは一度もありません。バスの運転手さんに道を尋ねた時には「あなたが乗りたいバス停の近くまでこのバスは行くから乗っていきなよ。」と無賃で乗せてくれました。国際色豊かだから優しいのか、優しいから国際色豊かになるのか分かりませんが、世界中からこの町へ人々が集まってくる理由が分かるような気がします。バンクーバーは男女差別、人種差別がないのはもちろんのこと、LGBTの方もオープンで、そうでない方もLGBTの方を尊重している姿がうかがえ、全ての人にとって住みやすい街であるように感じます。



ガスタウンにある蒸気時計



登校中に見つけたリス

#### ②語学学校について

語学学校は比較的国際色豊かで校内アクティビティを豊富に行っているところを選びました。特にコロンビア、メキシコ、ブラジルなど中南米の方が多かったです。日本にいと中南米の方と接する機会が少ないので、とてもいい経験でした。校内アクティビティでは天気の良い日には Stanley Park という国立自然公園のようなところへ行ったり、雨の日にはボーリングをしたり、ジェラートを食べに行ったりしました。語学学校には様々な国から幅

広い年代の方が来ていて、性格も一人一人異なるため、それを考慮してアクティビティをコーディネートしているようです。アクティビティは毎週水曜日と金曜日に行われるのですが、どちらかでボーリングなどの活動的なアクティビティを行うときには、ジェラートを食べに行くなどの落ち着いたアクティビティを別の曜日に行います。また、生徒の中にはムスリムの方やベジタリアンの方がいるため、飲食のアクティビティもジェラートやドーナツなど比較的全ての方が食べられるものを選択しているようです。アクティビティ中も英語で話さなければいけないので、一人で参加しても言語が分からないために独りぼっちになるという心配もなく、入学したばかりの生徒も参加しやすい環境です。実際に私もアクティビティ中に友達になった人が数人います。



クラスメイトと先生



Stanley Park 内から撮った風景

### ③住居

最初の一か月はホームステイをしました。これはエージェントを通して日本で予約したため特に問題はなかったのですが、それ以降は自分で住居を探さなければいけなく、苦労しました。カナダ留学では最初の数か月はホームステイをし、その間に自力で次の住居を探すという人が多いです。住む形式としてはシェアハウス、見つけ方としてはインターネット上のサイトで目安をつけ、気になった所に電話やメールで連絡を取り、実際に内覧するという方法が主流です。目安としては住みたい日（月初めから住み始めるのが通常）の一月前くらいには住居を確定します。特にバンクーバーには沢山の留学生がいることに加え、家賃が高いことからカナダ人もシェアハウスに住むケースが多いため、一か月を過ぎると条件の良いシェアハウスは売れてしまい、見つけづらくなります。そのため私もバンクーバーについて右も左も分からないうちからシェアハウス探しを始めなければなりません。学校から帰ったら宿題とシェアハウス探しという生活でその時期はとても忙しかったです。これからカナダに留学する方にはホームステイ期間を2か月以上設けるか、日本で予め住みたいシェアハウスに目星をつけておく（Craigslisというサイトを使って私は見つけました）ことをお勧めします。

また、ホームステイについてですが、語学学校の友人の話を知ると色々なケースがあるようです。ホストファミリーがアジア出身で英語でのコミュニケーションが難しかったり、契

約では三食提供のはずがホストマザーは早起きが苦手で朝食や昼食を用意していなかったり、ホームステイをビジネスとして行っているためほとんど交流がなかったり…。こういうケースは少ないことを願いますが、やはり私は心配だったのでエージェントと沢山話し合って、自分の希望を明確に伝えました。その結果、本当に素晴らしいホストファミリーとマッチングすることが出来ました。みんなフレンドリーで優しく面白くて、始終笑顔が絶えない家族でした。本当の家族のように私もその輪の中に入れてもらい、夕食の後には一緒に映画を見ることもよくありました。ホームステイ最終日には「いつでもメールや電話をしてきていいからね。寂しくなったらいつでも帰っておいで、そしたら一緒に夕飯を食べよう。あなたはもう私たちの家族なのだから。」とってもらえました。一か月という短いホームステイ生活でしたが、私の中では大きな思い出になりました。



ホームステイ先の壁の写真  
この言葉のようにこの家には  
愛が溢れていました。

バンクーバーでの生活は約一か月が過ぎましたが、日を追うごとにこの町の魅力に気付かされます。それと同時に日本の、そして岩手の良さを再確認しています。バンクーバーはとても住みやすい町ですが、岩手も負けないくらい素敵な町であることを改めて感じました。

次回はインターンシップについて主に書かせていただきたいと思います。ここまで読んで下さり、ありがとうございました。